

## 平成28年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	地理学概論A(Introduction of Geography A)		授業コード	K004501
担当教員名	土居 晴洋		科目ナンバリングコード	K10703
配当学年	2	開講期	前期	
必修・選択区分	必修(地理学概論A・Bどちらかを必ず取得)	単位数	2	
履修上の注意または履修条件	<p>板書事項は暗記するためのものではなく、自ら考えるための基礎である。現象の背後にある要因やメカニズムについて、考えることの楽しさや難しさを感じてください。「地理学概論B」を合わせて履修することが望ましい。</p> <input type="checkbox"/>			
受講心得	<p>講義において提示された地理学的見方・考え方を普段の生活の中で確認するように努力する。また、適宜、課題を課すので、期限内に提出する。 <input type="checkbox"/></p>			
教科書	なし			
参考文献及び指定図書	適宜紹介する。			
関連科目	地理学概論B, 地誌学			

授業の目的	<p>人間あるいは人間社会を時間と空間の枠組みの中で理解することが人文地理学の目的であることを認識し、複雑に変化を遂げる現代社会を地理学的視点から解釈するための理論や方法論を提示します。高校までの学校教育の「地理」の影響で、暗記科目ととらえられがちな「地理」のイメージを払拭し、現代社会を理解するうえで、地理学の見方・考え方が非常に有効であることを理解し、地理学的な見方・考え方の基礎を身につけることが本授業の目的です。□</p>
授業の概要	<p>地理学の全体像を理解したうえで、人文地理学を中心に学んでいきます。現代社会の基礎をなす産業や都市の特徴を、それがどこにあるかという空間的配置の様子からとらえます。また、人口や商品、情報などは空間的な移動を伴いますが、その動きの空間的特質を考察します。さらに人がどのような空間的な認識を持っているのか、歴史学とは異なる過去の時間断面の地域の様子のとらえから、地域の平等や不平等など、人文地理学の新しい研究動向を踏まえて、地理学の見方・考え方を身につけていきます。□</p>

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
<b>第1週：地理学の概要</b> 高校までで学んできた地理(地理的分野)と大学で講ずる地理学の関連を理解することで、地理学の基本的な枠組み、ものの見方や考え方の特徴を理解する。	配付資料 身の回りの事象の考察
<b>第2週：人間理解の学問としての人文地理学</b> 地誌学、自然地理学とともに、地理学の中核を占める人文地理学の目的と、そのための研究方法の特徴について理解する。	配付資料 身の回りの事象における確認
<b>第3週：配置の地理学1 配置の原理</b> 地域や社会に生起する様々な現象は必ず一定の場所を占拠するため、その現象は、どこに何がどのようにあるのかという、配置として捉えられる。具体的事例を通して、配置の原理について考察する。	配付資料 身の回りの事象における確認
<b>第4週：配置の地理学2 産業の配置</b> 工業や農業などの産業の本質を理解するための方法論の一つとして、産業を配置の問題として捉える。身の回りにおける産業を配置から考察することで、産業の特質が明確になることを理解する。	配付資料 身の回りの事象における確認
<b>第5週：配置の地理学3 都市の配置</b>	

都市の持つ様々な機能のうち、物品やサービスなどを住民に提供・分配する機能のみに注目すると、都市の配置には空間的な規則性が生まれる。これを現実の都市の配置と対比することにより、都市の持つ本質的な意味・意義についても言及する。		配付資料 身の回りの事象における確認
<b>第6週：動きの地理学1 人とももの空間的な動き</b>		
通勤流動のような人の動きだけでなく、海風・陸風など、自然現象を加えると、社会には動くものが溢れている。このような動きを空間的に考察することの意義やそこから見えてくるものを考える。		配付資料 身の回りの事象における確認
<b>第7週：動きの地理学2 人とももの動きの理論</b>		
社会に溢れる人間が関わる、あるいは生み出すものの動きを具体的に捉え、その空間的な動きの特質から、その現象の本質について考察する。		配付資料 身の回りの事象における確認
<b>第8週：動きの地理学3 情報化と地域間の結びつき</b>		
情報化社会と言われる現代社会において、情報がどのような空間的動きの特徴を持っているのか、またそのことは地域と地域のつながりを捉えることになることを理解する。		配付資料 身の回りの事象における確認
<b>第9週：空間認識と地理学1 空間を認識すること</b>		
前週までで考察した人間活動の配置や動きは、我々が身の回りの空間や世界を認識することが始まっている。人間が空間を認識することを捉えることの意義について考える。		配付資料 身の回りの事象における確認
<b>第10週：空間認識の地理学2 地域と空間認識</b>		
人間の空間認識は一人一人異なるため、その特徴を捉えることは容易ではないが、これまでに明らかにされた空間認識の特質や規則性を整理することで、自らの空間認識の特徴についても考える。		配付資料 身の回りの事象における確認
<b>第11週：空間認識の地理学3 空間認識の発達過程</b>		
空間認識は子どもから大人へと成長する過程において、その特徴が変化する。発達段階と空間認識の対応関係と、その背景的要因について考察する。		配付資料 身の回りの事象における確認
<b>第12週：時間と地理学1 人間行動と時間</b>		
地理学では一人一人の日常的な行動についても考察する。このような行動は「空間」と離れがたく結びついていると同時に、「時間」の制約のもとにもあることを理解する。		配付資料 身の回りの事象における確認
<b>第13週：時間と地理学2 行動の地理学</b>		
「時間」という制約のもとで、人間行動はどのような特徴を持つのかを考察する。また、そのような行動の集積が現代社会ではどのように出現するのかについても理解する。		配付資料 身の回りの事象における確認
<b>第14週：時間と地理学3 時間の地理学</b>		
人間行動を「時間」との関わりで考察することによって、我々は何を得ることができるのかについて考える。		配付資料 身の回りの事象における確認
<b>第15週：これからの地理学</b>		
本講義で取り上げた「配置」、「動き」、「時間」というキーワードを振り返りながら、地理学による考察・研究が現代社会を理解するために有効であることを再確認するとともに、地理学の将来的な発展方向について展望する。		配付資料 身の回りの事象における確認
<b>第16週：期末試験</b>		
期末試験		
授業の運営方法	(1)授業の形式	「講義形式」
	(2)複数担当の場合の方式	
	(3)アクティブ・ラーニング	
地域志向科目	カテゴリ III：地域における課題解決に必要な知識を修得する科目	
備考		

<b>○単位を修得するために達成すべき到達目標</b>	
<b>【関心・意欲・態度】</b>	日常的な事象を認識し、地理学的な関心を持つことができる。
<b>【知識・理解】</b>	地理学の概念や基地理学の基本的な見方・考え方を習得している。

【技能・表現・コミュニケーション】	基本的な主題図や統計資料の読解と考察を行うことができる。
【思考・判断・創造】	地理学の見方・考え方をういて日常的な事象を考察することができる。

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等(テスト)	レポート・作品等(提出物)	発表・その他(無形成果)	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。			5点	
【知識・理解】 ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。	40点		5点	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。	10点	20点	5点	
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。	10点		5点	
<b>(「人間力」について)</b>				
※以上の観点到、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等(提出物)	丁寧な作業の実施。技能の習得。
発表・その他(無形成果)	積極的な授業への参加。